● 授業科目の内容紹介

保育専攻

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
現代保育者論		**2**	**保**	**1・2**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

保育者の専門性について、今日の社会的背景及び幼児教育の課題との関連性から考察する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.テキストの講読と検討を通して、他者の保育の在り方について考察できる。
2.議論を通して、他者と自己の保育の考え方や方法の違いを考察できる。
3.自分の目指すべき保育者像を語ることができるようになる。

Ⅲ　授業の概要

共通テキストを読み、グループで検討、発表をおこなっていく。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1. わたしの出会った保育者	実習などで、出会った保育者の魅力を話し合う
2. 保育者の専門性(1)	保育者の専門性について話し合う
3. 保育者の専門性(2)	実践記録を読み合う
4. 保育者の専門性(3)	実践記録を読み合う
5. 保育者の専門性(4)	実践記録を読み合う
6. 保育者の専門性(5)	実践記録を読み合う
7. 保育者と子どもの関係	よい関係とは何か考える
8. 保育者と保護者との関係(1)	保護者に寄り添うとは
9. 保育者と保護者との関係(2)	子どもの様子を伝える意味
10. 保育者をめぐる社会的課題(1)	どんな課題があるか、話し合う
11. 保育者をめぐる社会的課題(2)	どんな課題があるか、話し合う
12. 海外の保育(1)	海外の保育から学ぶ
13. 海外の保育(2)	海外の保育から学ぶ
14. 学びの振り返り	これまでの学びを振り返る
15. 今後の課題	自分の課題を発見する

Ⅴ　使用テキスト・教材等

授業時に配布

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100		40	40	20	
テキストの内容の理解と考察			○	○	
保育実践の理解と考察			○	○	
現代の保育者の課題と展望の考察		○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

テキストをよく読み、問いをもって参加すること

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

発表は責任を持って行うこと。討論に積極的に参加すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育学演習		**〔2〕**	**保**	**1**	**加藤寿子**

Ⅰ 主題

この授業では、地域の子育て家庭のための支援活動である「子育て広場」の実践を通して、子育て支援活動の必要性や子育て家庭の現状について考える。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援活動の実践により、支援に関する考えを持つことができるようになる。
2.子どもや母親の思いに触れ、子どもや母親の現状を理解することができる。
3.保育者としての役割を理解し、保育の実践力・支援する力を養う。

Ⅲ 授業の概要

地域の親子が参加する「子育て広場」の活動(全10回)を企画・運営しながら、子育て家庭の現状を理解するとともに支援活動の課題とその必要性を考える場とする。広場の実践後には、保育者集団として検討改善を重ね、次回の広場に反映するための準備を行う。これにより保育者としての実践力を養い、子どもや保育について主体的に取り組む保育者間の連携を育てる。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1～2. 子育て支援とは何か	子育て支援のあり方を考える
3. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場①)
4～5. 保育実践の検討と準備	保育環境を考える
6. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場②)
7～8. 保育実践の検討と準備	支援内容を検討する
9. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場③)
10～11. 保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
12. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場④)
13～14. 保育実践の検討と準備	保護者の支援について考える
15. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑤)
16～17. 保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
18. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑥)
19～20. 保育実践の検討と準備	子どもとのかかわりを考える
21. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑦)
22～23. 保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
24. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑧)
25～26. 保育実践の検討と準備	親子をつなぐ試み
27. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑨)
28～29. 保育実践の検討と準備	子育て支援活動の課題
30. 子育て支援の実際	保育実践(子育て広場⑩)

Ⅴ 使用テキスト・教材等

必要に応じて資料を配布する。

Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目 ＼ 成績評価方法	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他(保育実践)
配点比率(%) 合計 100%	20	20		20	40
子育て支援活動の理解	○	○		○	○
子どもや母親の現状の理解	○	○		○	○
保育者の役割の理解	○	○		○	○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

保育実践に必要となる準備を、各自責任を持って行うこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

特になし

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
幼児体育演習		〔2〕	**保**	**1**	**田村元延**

Ⅰ　主題

幼児における心身の発育発達を踏まえた運動あそび教材及び環境を試案し、実践的な検討を通して、あそびの援助方法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.幼児における心身の発育発達について、年齢別の特徴を説明することができる
2.幼児における心身の発育発達を踏まえ、運動あそび教材及び環境を試案することができる
3.試案した教材及び環境の有用性について実践に応用可能な考察を行うことができる

Ⅲ　授業の概要

幼児の発育発達に関する基本的内容を理解した後、運動あそび教材及び環境を試案、幼児対象に実践し、その有用性についての検討を行うことで実践的に運動あそびの援助方法を学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1. オリエンテーション	幼児の体育教育の現状について
2. 幼児期の発育発達の理解①	幼児期運動指針の理解
3. 幼児期の発育発達の理解②	身体運動の科学的理解
4. 幼児期の発育発達の理解③	年齢別の運動発達の理解
5. 教材及び環境づくりの発想①	「ひと」と関わる教材及び環境づくりの考え方、発想方法
6. 教材及び環境づくりの発想②	「もの」を用いた教材及び環境づくりの考え方、発想方法
7. 教材及び環境づくりの発想③	「おと」を用いた教材及び環境づくりの考え方、発想方法
8. 運動あそび教材及び環境の試案①	自主研究①:教材及び環境の試案
9. 運動あそび教材及び環境の検討①	実践した教材及び環境についての検討
10. 運動あそび教材及び環境の試案②	自主研究②:教材及び環境の試案又は修正
11. 運動あそび教材及び環境の検討②	実践した教材及び環境についての検討
12. 運動あそび教材及び環境の試案③	自主研究③:教材及び環境の試案又は修正
13. 運動あそび教材及び環境の検討③	実践した教材及び環境についての検討
14. 実践研究報告	自主研究①②③の成果報告
15. まとめ	これまでのふりかえり(レポート作成など)

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。適宜プリント等を配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100		20	60	20	
幼児の発育発達の理解		○	○	○	
運動あそび教材及び環境の試案と実践		○	○	○	
試案した教材及び環境の検討		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

本授業内で試案した教材及び環境を幼児対象に実践する予定である

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

履修上の注意　：　演習時においては、運動のできる服装(ジャージ・体育館シューズ)・筆記用具持参

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
発達心理学特論	**4**		**保**	**1**	**大村壮**

Ⅰ 主題
この授業では、発達理論や先行研究の知見を学び、人の発達とその支援を理解することが目的である。

Ⅱ 授業の到達目標
1.発達理論や先行研究の知識を身につける
2.人の発達過程をイメージできる
3.その発達過程に関わり支援のあり方について考察、自らの意見をもつ

Ⅲ 授業の概要
教員を含めた文献輪読を通して、他者の意見に触れたり、実習での経験を交えて、発達理論や先行研究の知見を習得する。そしてその知識を生かして関わりや支援のあり方について自らの意見をもてるようになる。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1 イントロ、報告順の決定	報告者の決定、レジュメ作成方法の指示
2～ 7. 文献輪読と報告Ⅰ	レジュメの報告と討論
8. 問を整理する	文献に関する疑問を検討し整理する
9～14. 文献輪読と報告Ⅱ	レジュメの報告と討論
15. 全体をまとめる	他の文献も含め、まとめる
16～18. 発達心理学研究を学ぶⅠ	幼児期の遊びに関する研究論文の輪読
19～21. 発達心理学研究を学ぶⅡ	幼児期の言語発達に関する研究論文の輪読
22～24. 発達心理学研究を学ぶⅢ	幼児期の人間関係に関する研究論文の輪読
25～27. 発達心理学研究を学ぶⅣ	子ども虐待に関する研究論文の輪読
28～30. 発達心理学研究を学ぶⅤ	発達障がいに関する研究論文の輪読

Ⅴ 使用テキスト・教材等
授業中に指示する。

Ⅵ 参考書・参考資料
特になし

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他()
配点比率(%) 合計 100%			40	60	
発達理論の理解と考察			○	○	
発達過程の把握			○	○	
援助・ケアに対する考察			○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
レポーター以外も自分の意見を言えるように、必ず文献を読んで授業に参加することを求めます。また毎週の実習で経験したことを言葉にできるように実習の振り返りを十分に行なうことを求めます。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
この授業は、年間を通して学生と教員が共同して作っていく授業です。またレポーターとしての発表と他学生の発表に対する意見表明によって成績評価を行ないます。そのため学生の積極的な参加を期待します。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
特別支援教育論		**2**	**保**	**2**	**菅沼貴幸**

Ⅰ 主題

特別支援教育の理念や推進体制について概観し、幼稚園等における実践に当たっての必須事項を学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.特別支援教育の仕組みを理解し、その意義について考察することができる。
2.子どもの特性に即した配慮や支援の在り方について実践的な知識を習得する。
3.「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の作成の必要性を理解し、事例をもとに作成することができる。

Ⅲ 授業の概要

特別支援教育は、幼・小・中・高校等のすべての教師によって推進され、障害のある子どもを含む保育・教育の質的向上を目指すものである。授業では、特別支援教育を支える理念や推進の仕組みなどについて基本的な理解を図るとともに、障害のある子どもの理解と指導・支援の在り方、個別の指導計画の作成の実際、保護者や関係機関との連携の在り方などの基礎的事項を学ぶ。講義を中心とするが、具体的事例を扱ったりグループ討議や演習などを取り入れたりする。

Ⅳ 授業計画と内容

項目		内容
1. 特別支援教育の意義		特別支援教育への転換と基本的な考え方について
2. 特別支援教育の仕組み		我が国の特別支援教育の現行制度について
3. 国内外の動向		条約の批准やインクルーシブ教育システムについて
4. 現在の障害観		「ICF（国際生活機能分類）」と障害理解について
5. 園内外における支援体制		園内委員会やコーディネーター、巡回相談など推進の仕組み
6. 個別の指導計画		作成の意義と手順について
7.	気づきと支援の在り方（具体的事例をもとにグループワーク）	①落ち着きのない子や集団行動の苦手な子
8.		②こだわりが強い子やコミュニケーションがうまくとれない子
9.		③知的な発達に遅れがある子
10.		④手足が不自由な子
11.		⑤視覚や聴覚、ことばに障害のある子
12. 保護者や関係機関との連携		個別の支援計画の意義と活用について
13. 就学支援		就学相談と小学校等との連携について
14. 交流教育		統合保育や交流活動について
15. まとめ（ディスカッション）		特別支援教育と保育（教育）の在り方について
定期試験		授業で扱った重要事項を中心に出題し、講義内容の理解度をみる。

Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。資料を配布したり、参考文献を提示したりする。

Ⅵ 参考書・参考資料

はじめての特別支援教育（改訂版）	柘植・渡部・二宮・納富	有斐閣	2014	9784641220386
特別支援学校 教育要領 学習指導要領	文部科学省	海文堂出版	平成 21 年	9784303124236
インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門	大塚 玲	萌文書林	2015	9784893472007

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（筆記試験）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%) 合計 100%	40	30		30	
特別支援教育の意義や仕組等の理解	○	○		○	
障害の理解と実践的知識の習得	○	○		○	
個別の指導計画等の作成		○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

・講義やグループワークの中で必要となる事項を調べたり、レポートを作成したりする。
・指示がなくても予習、下調べをして授業に臨むこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

・毎時間、授業の目標に対する振り返りを行い、小テストの他に小レポートに記入する。
・授業への貢献度を評価するので積極的な参加を期待する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
社会福祉学特論	**2**		**保**	**1**	**川合忠美**

Ⅰ 主題
本科で学んだ社会福祉に関する知識を基に、児童福祉を中心に社会福祉の仕組みや動向を学び、これからの方向性と従事者の役割を考える。

Ⅱ 授業の到達目標
1.社会福祉の制度や仕組みを理解する。
2.戦後の社会福祉の歩みと動向を学ぶ。
3.これからの方向性と私たちの役割を考える。

Ⅲ 授業の概要
児童福祉諸施策が、子ども、家庭、職員(従事者)にどのように影響を及ぼしていくのかをテーマごとに各自またはグループで検討・考察、発表を行い理解を深める。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1- 2.	社会保障と社会福祉	29年度予算等から社会保障と社会福祉の関係等全体像を学ぶ。
3- 5.	社会福祉の仕組み	公的扶助、社会保険、社会福祉の内容と仕組みを学ぶ。
6- 8.	社会福祉の歴史	福祉六法の時代から基礎構造改革を経て、現在までの動向を理解する。措置制度から利用契約制度への転換。
9-11.	子ども子育て支援新制度の展開	新たな子供子育て支援制度の背景と課題を考える。
12-14.	これからの方向性	社会福祉制度のこれからと私たちの役割を考える。
15.	まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等
テキストは使用しない

Ⅵ 参考書・参考資料
本科の社会福祉の教科書等

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目 ＼ 成績評価方法	試験(筆記試験)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
社会福祉の仕組みや動向の理解	○	○	○	○	
授業への意欲、積極性		○	○	○	
情報、資料等の収集、分析、考察力		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
課題について各自で資料収集・分析をしておくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
日頃から社会福祉に関係するニュース等を収集しておくこと。

授　業　科　目　名	単位数		学科	年次	担　当　教　員
	必修	選択			
家族支援演習		〔1〕	**保**	**2**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題
家族支援の必要性を理解し、実践力を身に付ける

Ⅱ　授業の到達目標
1.社会福祉制度・関係機関の役割を理解し、支援力を高める。
2.家族を支援する際の面接スキルを理解し、身に付ける。
3.さらに、家族のニーズに応じた支援力・応用力を身につける。

Ⅲ　授業の概要
演習を中心として、授業項目ごとに検討・発表を行い、知識・技術を学習する。

Ⅳ　授業計画と内容

項　目	内　容
1. 家族支援とは、面接スキルの前に	福祉・教育・医療・司法・産業における支援制度
2. 家族支援制度	歴史的経過、家族形態の変化、街の家族支援制度
3. 保育所の社会的責任	保育と家族支援、児童福祉関係機関とその連携
4. 家族理解	ジェノグラム
5. 家族支援の必要性、相談とは	親子関係、 困難・喪失的体験時の心の動き
6. 事例検討の方法	インシデント法 1
7. 事例検討の方法	インシデント法2
8. 事例検討の方法	アセスメント表による検討1
9. 事例検討の方法	アセスメント表による検討2
10. 支援者としての自己理解	自らの対人関係を振り返る
11. 面接スキル（雰囲気づくり）	イエスセット
12. 面接スキル（明確化）	明確化　焦点化、感想　支持
13. 面接スキル（援助の3段階）	リフレーム、解釈、ねぎらい、
14. 保育者の具体的援助活動	障がい児支援
15. まとめ	これまでの授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等
テキストは使用しない。必要によりプリントを提示する。

Ⅵ　参考書・参考資料
児童家庭福祉・児童心理関係の教科書を参考とする。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60	10	15	15	
家族支援制度の必要性と施策の理解	○	○	○	○	
面接スキルの修得	○	○	○	○	
個別支援の理解と対応力	○	○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）
家族支援制度や関係機関の役割等の基本的なことを復習しておくこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援論		**2**	**保**	**1**	**鈴木久美子**

Ⅰ 主題

多様化する子育て支援活動の現状を理解し、様々な課題を抱える少子化時代の子育て支援について考察する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援活動の現状を整理し、それを説明できる。
2.さまざまな角度から子どもや家庭について理解し、考察できる。
3.子育て支援活動に従事する保育者としてのありかたを明確にとらえることができる。

Ⅲ 授業の概要

子育て支援の現状と課題について、文献を読み、整理、検討、意見交換を経て、保育者＝子育て支援者の立場からの「子育て支援論」について考察する。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.子育て支援とはなにか	子育て支援は何のためか
2.現代社会における子どもと家庭	子どもと家庭を取り巻く環境の変化を整理する
3.子育て支援の理念	子育て支援の理念と研究動向
4.子育て支援の歴史文化的諸相	伝統の子育てと家族の近代化
5.幼稚園・保育園における子育て支援	具体的な取り組みを知る
6.子育て支援センターの活動と課題	具体的な取り組みを知る
7.地域子育て支援活動	具体的な取り組むを知る
8.父親の子育て支援活動	父親を取り巻く環境と父親を支える支援を考える
9.～11.海外の子育て支援	他国の子育て支援を知る
12.子育て支援活動の展望と課題	現代の子育て支援について総合的に考える
13～14..子育て支援の環境・関係	支援者の立場から支援行動を考える
15.改めて子育て支援とはなにか	これまでの学びと子育て広場の実践から総合的に考える

Ⅴ 使用テキスト・教材等

子育て支援の理論と実践	子育て支援プロジェクト研究会	ミネルヴァ書房	2013	9784623064861
フランスはどう少子化を克服したか	高崎順子	新潮新書	2016	9784106106897

Ⅵ 参考書・参考資料

特になし

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（ ）
配点比率(%) 合計 100%	50		40	10	
子育て支援活動の現状の理解	○		○	○	
子ども・子育て家庭への理解	○		○	○	
保育者の役割の理解	○		○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

輪読を実施するので、担当章についてレジュメを作成すること。その他の者も、事前にテキスト該当部分を読み込んでおくこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

特になし

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
子育て支援演習Ⅰ		**〔1〕**	**保**	**1**	**太田嶋俊彦**

Ⅰ 主題

子育て環境の変化を知り、子育て支援の現代的意義・使命・役割を理解する。子ども子育て支援新制度についての理解を深め、現場体験を通して子育て支援の実践力を習得するとともに、地域のニーズに合った質の高い子育て支援のあり方について考えていく。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援の歴史的背景、使命、役割、必要性について理解する
2.保育現場における子育て支援活動を体験し、実践力、スキルを習得する
3.子ども・子育て支援新制度の理解と新たな課題、専門性について研究する

Ⅲ 授業の概要

子育て支援の意義,使命,役割,具体例等について講義。
子ども・子育て新制度の内容について講義。
保育所現場での実践体験。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 子育て支援の歴史的背景、意義	意義、役割、使命、具体的取組内容①(講義)
2. 子育て支援への取り組みの実際Ⅰ	具体的取組内容②(講義)
3. 保育所での実践体験①	計画立案、準備、参加等の現場実践
4. 保育所での実践体験②	〃
5. 保育所での実践体験③	〃
6. 保育所での実践体験④	〃
7. 保育所での実践体験⑤	〃
8. 保育所での実践体験⑥	〃
9. 保育所での実践体験⑦	〃
10.保育所での実践体験⑧	〃
11.子育て支援への取り組みの実際Ⅱ	具体的取組内容③(講義)
12.子ども子育て新制度の内容	子ども・子育て支援新制度の理解(講義)
13.保育士に求められる役割と資質	保育士の役割、資質、専門性　レポート作成(講義)
14.課題と展望	子育て支援の問題点と課題整理、今後の展望(講義)
15.まとめ	講義と討議

Ⅴ 使用テキスト・教材等

保育所保育指針
講師がプリントを用意

Ⅵ 参考書・参考資料

講師がプリントを用意

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	実習
配点比率(%)　合計 100	50	20		10	20
講義内容の理解	○				
事例研究		○			
実践力、観察力					○
出席日数　遅刻等				○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

実践体験について反省、評価、感想をレポートにまとめ次回に提出

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回、保育所保育指針を持参

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
子育て支援演習Ⅱ		〔1〕	**保**	**2**	**鈴木久美子**

Ⅰ 主題

地域における多様な子育て支援活動に積極的に参加し、現代社会における子育て支援について発展的に考察することで、実践力を身につける。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援の必要性を学び、子育て支援への理解を一層深めることができる。
2.子育て支援の多様性を学び、いま、求められている支援のあり方について考察できる。
3.自らが子育て支援を企画・運営することで、実践力を身につけることができる。

Ⅲ 授業の概要

これまでの学びを整理したうえで、実践的な子育て支援活動に積極的に参加し、多様な人々と出会い関わり、各人の考察をもとに理解を深め、実践力を身につける。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	子育て支援とはなにか	子育て支援の多様性を理解する
2.	地域の子育て支援	どのような場や機関があるかを調べる
3～ 4.	多様な子育て支援(1)	行政による子育て支援の内容を調べる
5～ 6.	多様な子育て支援(2)	行政以外の子育て支援の内容を調べる
7～ 8.	保護者の子育てネットワーク	保護者たちの子育てネットワーク活動を調べる
9～13.	子育て支援活動の企画・運営	子育て支援活動を企画・運営する
14～15.	自由討議	子育て支援をめぐる問題の整理とディベートの実施

Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。

Ⅵ 参考書・参考資料

授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	50	10	20	20	
子育て支援についての整理と理解	○	○	○	○	
支援のあり方についての考察	○	○	○	○	
子育て支援活動への参加とその姿勢			○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

子育て支援の企画を作成、終了後は活動参加記録を作成すること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

主体的な参加ができない場合は、出席を認めないこともある。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
子育て支援演習Ⅲ		**〔1〕**	**保**	**2**	**遠藤知里**

Ⅰ 主題

子育て支援演習Ⅰ、Ⅱでの学習を踏まえて、自分自身が身につけてきたことを活かして地域に貢献できる子育て支援事業を構想し、実際に企画・運営することを通して、子育て支援の場づくりに必要とされる援助技法およびマネジメント方法を総合的に学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子育て支援事業の企画から評価までの方法を理解し、企画した活動の中で実践できる。
2.人が集まる「場」づくりに必要なマネジメント力を身につけ、企画した活動の中で実践できる。
3.人が集まる「場」づくりに必要なファシリテーション力を身につけ、企画した活動の中で実践できる。

Ⅲ 授業の概要

「子育て支援」に関する問題意識に基づいて、自分たちの手で実現可能な「子育て支援事業」を構想し、実際に事業を行うことで企画・運営・評価について総合的に学び、「人と人とをつなぐ」場としての子育て支援事業の意義を学ぶ。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.「場」を創るとは？	思いを形にするために(ブレインストーミング)
2.企画の基本	ジンジキンコン(人・時・金・コンセプト) 企画の 5W1H の明確化
3.マネジメントの実際	広報(メディア)の計画 参加者募集方法の決定
4.マネジメントの実際	リスクマネジメント 危険予測 保険の選び方と契約
5.マネジメントの実際	「資源」を活かす・資金調達 必要物品・場所の借用等の確認
6.ファシリテーション・トレーニング	ファシリテーション方法の理解(お互いを尊重する環境)
7.ファシリテーション・トレーニング	ファシリテーション方法の理解(グループの発達段階)
8.ファシリテーション・トレーニング	ファシリテーション方法の理解(体験の再構成と方向づけ)
9.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業の準備
10.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業の準備
11.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業の実践
12.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業の実践
13.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業の実践
14.子育て支援事業の企画と実践	自らが企画した子育て支援事業のふりかえり
15.評価 まとめ	ディスカッション 全体のまとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

教科書は使用しない。

Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて資料を配付。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（積極的貢献）
配点比率(%)　合計 100		30	40	20	10
子育て支援事業の企画から評価までの方法を身につけ実践する		○		○	○
子育て支援事業のマネジメント力を身につけ発揮する			○	○	○
子育て支援事業のファシリテーション力を身につけ発揮する			○	○	○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

日頃から多様な子育て支援の場に関心を持って情報収集を行い、自らの問題意識を深めることを心がけてください。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

皆さんが企画する子育て支援事業の内容によっては、長期休業中または週末等に授業回数をまとめて実施することがあるので、その際は各人の予定の調整を求めます。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
幼児音楽		**〔2〕**	**保**	**1**	**宮下友美恵**

Ⅰ 主題

幼児にとって音や音楽との出会いはとても大切なものであり、音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わうことは、幼児の豊かな感性を育むことにつながる。そこで、この授業では、幼児の発達に応じた音楽の指導方法について学ぶ

Ⅱ 授業の到達目標

1.幼児の音楽教材について学び、発達に応じた教材を選ぶことができるようになる
2.幼児に対する音楽の指導法を理解し、適切な指導ができるようになる
3.さらに、伴奏の工夫や、編曲、遊び歌の創作ができるようになる

Ⅲ 授業の概要

幼児の歌や楽器遊びの教材について学び、年齢に応じた教材を選択する力を養ったり、具体的な奏法や指導法について学ぶ。グループで器楽合奏の編曲を行い、実際に演奏したり、オペレッタを演じたりする。幼稚園でのオペレッタの指導や器楽指導を参観し、学びを深める。また幼児に適した遊び歌を創作し、発表しあう。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.オリエンテーション	授業の内容と進め方について
2.～5.歌の指導	歌唱教材と指導法についての理解
6.～7.伴奏法	幼児の歌唱における効果的な伴奏の理解
8.～9.遊び歌の指導	遊び歌の教材と指導法についての理解
10.～13.遊び歌の創作	遊び歌を作詞・作曲し、発表しあう
14.～15.楽器奏法	楽器の奏法についての理解
16.～21.器楽合奏の指導	器楽合奏の指導と編曲についての理解
22.～27.オペレッタの指導	オペレッタ教材と指導についての理解
28.～29.音遊び	音遊びの指導
30.まとめ	これまでの内容のまとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

子どもの歌　常葉学園短期大学幼児音楽研究会　編
続『こどものうた 200』　小林美実編　チャイルド本社　9784805400029

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（実技）
配点比率(%)　合計 100		10	30	30	30
歌唱教材の理解と指導				○	○
遊び歌の指導と創作			○	○	○
器楽合奏の指導と編曲		○	○	○	○
オペレッタ教材の理解と指導		○	○	○	○
音遊びに対する理解と指導			○	○	○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

歌唱やピアノ伴奏の予習
授業で学習した内容についての復習

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
図画工作演習		**〔2〕**	**保**	**2**	**堀則雄**

Ⅰ　主題

この授業では、保育者として必要な「子どもの造形表現活動の基礎的・基本的な知識や技能」を、演習を通して習得する。

Ⅱ　授業の到達目標

1.子どもの発達特性を捉えた造形演習を通し、保育者として必要な総合的な表現活動の知識・技能を習得することができる。
2.子どもの表現と素材との関わり等を学び、表現意欲を高める素材や活動について理解を深める。
3.子どもの造形活動や作品に込められた子どもの思いや願いを、子どもの視点で理解し、受け止めることができる。

Ⅲ　授業の概要

保育者として必要な子どもの造形活動の知識・技能について、次のことを中心に学ぶ。
1　幼稚園・保育所等の現場で、実際に生かすことができる子供の造形活動の知識・技能を演習を通して学ぶ。
2　授業を通して学んだことを附属幼稚園でのフィールドワークとして実践し、その成果や課題を振り返り、現場で生きて働くような演習とする。
3　この授業を通し、子どもの表現をより深く読み取る目を養い、自分自身の保育観を高める内容とする。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1.	前期オリエンテーション	前期授業の内容説明
2～4.	造形表現の演習1	子どもの興味・関心と表現活動
5～7.	造形表現の演習2	身近にある素材と造形遊び
8～10.	造形表現の演習3	幼児の造形制作過程の理解
11～12.	造形遊びの演習1	素材を生かした遊びと工夫①
13～14.	造形遊びの演習2	素材を生かした遊びと工夫②
15.	造形遊びの演習3	素材を生かした遊びと工夫③
16.	後期オリエンテーション	後期授業の内容説明
17～20.	自然素材を生かした造形活動	フィールドワーク
21～22.	身近にある素材と造形活動1	素材を生かした造形遊び
23～24.	身近にある素材と造形活動2	素材を生かした造形制作
25～26.	身近にある自然と造形活動1	自然素材を生かした造形遊び
27～29.	身近にある自然と造形活動2	自然素材を生かした造形制作
30.	作品発表と授業のまとめ	作品鑑賞と授業のまとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは使用しない。(必要な資料は配布する。)

Ⅵ　参考書・参考資料

幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼児連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%		30	30	40	
総合的造形表現の知識や技能の習得		○	○	○	
表現意欲を高める素材や活動の理解		○	○	○	
子どもの造形活動の理解を深める		○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各授業のまとめをし、レポート提出に備えておく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

指示された表現用具・材料は各自で準備する。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
児童文化		**2**	**保**	**2**	**大坪弘典**

Ⅰ 主題

子どもは生活の中で、自立した人間としての基礎と深く関連がある文化を獲得していく。言い換えれば、子どものための児童文化財及び文化活動は、子どもが育つうえで重要な役割を担っている。ただし、大人から与えるだけでなく、子どもが主体となって創り出す文化もある。そこで、幼児教育者として、多様な児童文化という観点から、子どもの豊かな生活づくりのために必要な理論と実践力を身につけることを目的とする。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子どもを取り巻く文化と子どもとの関係について理解する。
2.多様な児童文化について学び、実践力を養う。
3.幼稚園教諭一種取得者として、幼児教育と小学校低学年教育とのつながりを理解する。

Ⅲ 授業の概要

乳幼児期の発達の段階を理論的に考察し、子どもをめぐる社会の変化と遊びの変遷等を自らの体験も含めて整理する。その上で、絵本、児童文学、伝承遊び等の文化活動の進め方や指導の在り方を学び、理解を深める。なお、実習など実地体験に積極的に取り組むことで、より深い理論の形成や実践力の習得を目指す。併せて、幼保小の連携が重視されている昨今、幼児教育と小学校低学年教育のつながりについても教授する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	児童文化とは何か	幼児教育者として児童文化について概観する
2～ 4	子どもの生活と遊び	テキスト講読と並行して子どもの生活実態を調べる
5～ 6	家庭での遊びの現状	子どもの遊び方について現状を調査し、特色と課題を討議する
7～ 8	遊びの変遷	テキストなどを参考に調べ学習を経て、まとめる
9～11	保育における児童文化	子どもの発達に応じた保育における児童文化の活用例をまとめる
12～16	継承したい遊び	遊びの伝承者として継承したい遊びを調べ、習得する
17～20	子どもと科学の世界	児童厚生施設として科学館を見学する。
21～24	絵本と読み聞かせ	様々な絵本や紙芝居を読み、発達に即した読み聞かせを実践する
25～30	生活科と幼保小の接続	生活科のねらいと目的を理解したうえで、生活科の授業参観を経て、幼保小の接続の在り方について学ぶ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

児童文化　　小川清実　　萌文書林　　9784893471444

Ⅵ 参考書・参考資料

幼保連携型子ども園教育・保育要領解説　　内閣府・文部科学省・厚生労働省　　フレーベル館

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%		40	30	30	
子どもの成長と文化との関係性についての理解		○	○	○	
児童文化についての理解と文化活動の実践		○	○	○	
幼保小の連携についての理解		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

新聞やインターネット等で、子どもの生活と文化の状況把握に努めること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
音楽理論		**2**	**保**	**1**	**江間秀明**

Ⅰ 主題

古くから日本に伝わるわらべうたや童謡などを歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたり、伴奏したりするために必要な音楽理論の知識を学ぶ。また、ピアノによる伴奏や弾き語りができる演奏技術を習得する。

Ⅱ 授業の到達目標

1.わらべうたや童謡などの楽譜を読み解き、子どもたちが歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりするために必要な音楽理論の知識を身に付ける。

2.わらべうたや童謡などの楽譜を読み解き、旋律にコードを付けることや子どもたちが歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりしやすいように曲をアレンジする知識を身に付ける。

3.子どもたちがわらべうたや童謡などを歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりすために必要なピアノによる伴奏や弾き語りの演奏技術を習得する。

Ⅲ 授業の概要

日本の四季の移り変わりや子どもたちの年齢、実態、興味関心に合わせて、わらべうたや童謡などを中心に、幅広い曲の中から教材を選択する。また、子どもたちの目線に立ち、子どもたちが歌いやすいように、身体を使って表現しやすいように曲をアレンジするために必要な音楽理論の知識を学ぶ。さらに、学んだ知識を生かして旋律にコードを付けたり、伴奏を工夫したり、ピアノで弾き語りをする演奏技術を身に付ける。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方の説明、知識の確認、機器の取り扱い
2	五線と大譜表	五線と大譜表の名称と読み(ト音譜表、ヘ音譜表、ハ音譜表)
3	音名	日本音名、英米音名、独音名
4	音符と休符	音符、休符、付点音符、連符
5	拍子とリズム①	単純拍子、複合拍子、混合拍子、変拍子
6	拍子とリズム②	拍子に合った8小節のリズム作り(提出)及び即興演奏
7	調号と主音	♯と♭の調号と各種調の主音(長調、短調)
8	長音階と短音階	各種の長音階と短音階(自然、和声、旋律)
9	移調と転調	移調と関係調
10	音程と和音	音程(1度～8度)、三和音(M、m、dim、aug)
11	コードと伴奏①	各種コードをピアノで弾く(いろいろなコードを左手で弾く)
12	コードと伴奏②	各種コードをピアノで弾く(わらべうたや童謡をコードで伴奏する)
13	コードと伴奏③	各種コードをピアノで弾く(わらべうたや童謡をコードで弾き語りする)
14	コードと伴奏④	各種コードをピアノで弾く(わらべうたや童謡をコードで弾き語りする)
15	発表とまとめ	弾き語りの発表と音楽理論のまとめ
	定期試験	筆記試験

Ⅴ 使用テキスト・教材等

『ミッキーといっしょーはじめての楽典ブックー』	長沼由美 他	ヤマハミュージックメディア		9784636885422
『ミッキーといっしょーはじめての楽典ワークブックー』	長沼由美 他	ヤマハミュージックメディア		9784636894141
おんがくのしくみ歌って動いてつくってわかる音楽理論	今川恭子、志民一成 他	教育芸術社	2015	9784877883775

Ⅵ 参考書・参考資料

必要に応じて、授業内にプリントを配布する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(筆記試験)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	40	20	20	20	
音楽の基礎的な理論に関する理解	○	○	○	○	
記譜、読譜力の習得	○	○	○	○	
コードを用いた伴奏づけの理解と実践	○	○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

授業外の学習として演習課題を課すことがある。

その都度、単元テストを行うので学んだことを復習して、次の授業に臨むこと。

ピアノでの弾き語りは、時間があれば授業時間外も練習すること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

『ミッキーといっしょーはじめての楽典ブックー』と『ミッキーといっしょーはじめての楽典ワークブックー』は本科時に使用したものを使うので、新規購入の必要はない。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
絵画		**〔1〕**	**保**	**1**	**小倉隆**

Ⅰ 主題
この授業では、描画表現の楽しさを味わい、保育者として必要な描画、絵画の基礎的知識とを習得し理解する。

Ⅱ 授業の到達目標
1.描画の楽しさを味わうとともに、他の人の描画表現を理解、鑑賞することが出来るようになる。
2.さまざまな描画材料と方法を試し、それぞれの良さを考察出来るようになる。
3.近代西洋絵画の歴史を学び、絵画鑑賞に興味を持ち理解きるようになる。

Ⅲ 授業の概要
主体的にさまざまな材料と観点で描画を試み、紹介することで、描画の楽しさを味わい、表現すること、鑑賞することの身近さを理解する。さらに近代西洋絵画の歴史を学ぶことで知識と興味を深める。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1 オリエンテーション	みることと描画・絵画；自分の関わりを見つめる
2 描画を試す	自由に描く・描いた絵を振り返る
3 描画を試す	眼差し・発見を描く、描いた絵を紹介する 1
4 描画を試す	眼差し・発見を描く、描いた絵を紹介する 2
5 描画を試す	人の姿をみつめる、友だちを描く 1
6 描画を試す	人の姿をみつめる、友だちを描く 2
7 描画を試す	人の姿をみつめる、友だちを描く 3
8 自然の姿をみつめる	野菜・果物を描く1
9 自然の姿をみつめる	野菜・果物を描く2
10 自然の姿をみつめる	葉を描く
11 西洋美術史	近代西洋絵画の歴史を学ぶ
12 描画を試す	絵の具で描く1
13 描画を試す	絵の具で描く2
14 描画を振り返る	ポートフォリオをつくる
15 授業のまとめ	授業の学びを確かめる

Ⅴ 使用テキスト・教材等
必要な用具は各自で持参する。

Ⅵ 参考書・参考資料
必要な資料は配布する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%) 合計 100%		30	30	40	
描画と鑑賞の理解		○	○	○	
多様な描画の実践と紹介		○	○	○	
近代西洋絵画の知識・理解		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
授業で使う材料・持物の事前準備。
レポートの提出に備え、各授業の内容を確実にまとめておく。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
授業に必要な用具と材料は、各自で持参する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育学特論	**4**		**保**	**1**	**前浦律子**

Ⅰ 主題

この授業では、「子どもの遊びをどう理解するか」「どう保育を構想するか」について明らかにし、遊びについての理解を深め、専門性を高める。

Ⅱ 授業の到達目標

1.文献購読を通して、遊びの本質について理解を深め、専門性を高める。
2.子どもを観察し、目的に応じて多様な記録を取ることができる。
3.記録について分析、考察をし、保育を構想することができる。

Ⅲ 授業の概要

文献購読を通して子どもの遊びについて理解を深め、さらに、実際に保育の場で子どもの遊びを観察・記録し、分析、考察をする。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2～15. 文献購読 文献を分担して読み進め、「子どもの遊びをどう理解するか」、「どう保育を構想するか」について、明らかにしていく。	・遊びを中心とした保育とは ・子どもの遊びを理解する ・子どもの遊びを援助する ・保育に生きる記録とは ・保育記録のなかの計画性 ・育ち合う子どもと保育者 ・行事のとらえ方と指導 ・子どもと保育者が織りなす生活 ・遊びの意義、再確認 ・総合的な学びを保障する ・保育者の役割
16. 観察法について	子どもを「見る」こととはについて考える
17～29. 遊びの記録をもとに討論	各自の記録を発表し、考察し合う
30. まとめ	まとめのレポートを作成する

Ⅴ 使用テキスト・教材等

「遊びを中心とした保育」　河邉貴子　（萌文書林）　9784893470874

Ⅵ 参考書・参考資料

幼稚園教育要領解説
保育所保育指針解説書
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%) 合計 100%		80		20	
子どもの遊びについて理解する		○		○	
子どもの遊びを観察し記録する		○		○	
記録を分析、考察する		○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

提示された文献を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

授業には、自分の考えを持って意欲的に参加する。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
教育心理学特論		**2**	**保**	**1**	**土屋廣人**

Ⅰ 主題
主に乳幼児期の発達について教育心理学の視点、特に発達と学習・発達課題について学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.発達過程及び変化の指標について理解し、発達的見方を身につける。
2.変化の指標に沿った行動について理解し、保育に活用できるようにする。
3.さらに、乳幼児期の発達が児童期以降に与える影響について理解し、支援力を高める。

Ⅲ 授業の概要
乳幼児の発達と教育に関する文献を自らまとめ、意見交換する。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 発達と教育	発達と教育の関係を学ぶ
2. 乳幼児期の発達と教育1	0 歳児の教育について学ぶ
3. 乳幼児期の発達と教育2	1 歳児の教育について学ぶ
4. 乳幼児期の発達と教育3	2 歳児の教育について学ぶ
5. 乳幼児期の発達と教育4	3 歳児の教育について学ぶ
6. 乳幼児期の発達と教育5	4 歳児の教育について学ぶ
7. 乳幼児期の発達と教育6	5 歳児の教育について学ぶ
8. 発達課題と教育1	発達課題と虐待の影響について学ぶ
9. 発達課題と教育2	社会適応と発達課題の関係について学ぶ
10. 発達課題と教育3	不適応児童への対応について学ぶ
11. 発達課題と教育4	不適応児童への対応について学ぶ
12. 障碍児の発達と教育1	障碍児の発達について学ぶ
13. 障碍児の発達と教育2	治療理論について学ぶ
14. 障碍児の発達と教育3	保護者支援について学ぶ
15. まとめ	これまでの授業をまとめる

Ⅴ 使用テキスト・教材等
やさしい教育心理学第4版　鎌原雅彦・竹綱誠一郎　有斐閣　2015　9784641220591

Ⅵ 参考書・参考資料

発達の扉（上）	白石正久著	かもがわ出版	4876991448
不思議現象 ： 子どもの心と教育	菊池聡，木下孝司編著	北大路書房	9784762820892

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60		20	20	
発達的見方を身につける	○		○	○	
子どもの行動の理解と応用	○		○	○	
発達支援の重要性の理解	○		○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
提示された文献等を事前に学習し、発表の準備をする。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
主体的な授業参加態度が求められる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
学校教育社会学特論		**2**	**保**	**2**	**前浦律子**

Ⅰ 主題

この授業では、幼児教育の歴史や現状を捉え、社会の変化に伴って発生する今日的課題(政策)について分析、検討し、保育者としての専門性を高める。

Ⅱ 授業の到達目標

1.幼稚園教育の歴史的変遷を通して、保育内容を理解することができる。
2.幼稚園教育要領の変遷を通して、日本の幼児教育思想を理解することができる。
3.幼児教育の現状を捉え、今日的課題を吟味することができる。

Ⅲ 授業の概要

幼稚園教育の歴史的変遷を捉えるとともに、社会の変化に伴って発生する今日的課題を探求する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	オリエンテーション	授業内容の概略と計画
2.	戦前・戦後の幼稚園教育	戦前・戦後の幼稚園の位置
3.	幼稚園教育におけるカリキュラムの変遷	カリキュラムの変遷と特徴について
4.	幼稚園教育要領の変遷(1)	教育思想の観点から
5.	幼稚園教育要領の変遷(2)	教育内容と方法論の観点から
6.	幼稚園教育の現状と課題	第3の教育改革について
7〜9.	子ども子育て支援新制度について	幼保一元化・一体化について 認定こども園(幼保連携型認定こども園)の理念 教育課程の編成
10〜12.	幼・保・こども園・小の接続・連携について	連携の意義について 連携の内容について 接続期の教育・保育について (アプローチカリキュラムからスタートカリキュラム)
13.	幼稚園の役割拡大について	家庭・地域との連携について
14.	特別支援教育	根拠あるアセスメントについて
15.	教員の免許更新制度	免許更新の意義と背景について

Ⅴ 使用テキスト・教材等

資料は、必要に応じて提示する。

Ⅵ 参考書・参考資料

「日本の幼児教育思想と倉橋惣三」	諏訪義英	新読書社
「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」	民秋 言	萌文書林
「学びと発達の連続性」	社団法人全国幼児教育研究協会編	チャイルド本社

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目 ＼ 成績評価方法	試験 ( )	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他 ( )
配点比率(%) 合計 100%		80		20	
幼児園教育の歴史的変遷の理解		○		○	
幼児教育の思想の理解		○		○	
今日的課題(政策)についての理解		○		○	

Ⅷ 授業時間外の学習(予習・復習等)

・個人の問題意識をもって講義に参加する。
・参考文献は、自主的に読んでおく。

Ⅸ その他(履修上の注意、前提条件等)

レポートをもとに授業を進めるので、担当者は、その担当箇所について資料を作成し、発表すること。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（健康）		**2**	**保**	**1・2**	**鈴木雅裕**

Ⅰ 主題
領域「健康」の内容を理解し、保育内容の実践力を高める。

Ⅱ 授業の到達目標
1.領域「健康」のねらい・内容を理解し、乳幼児の健康的な生活を支援できる。
2.乳幼児の身体発達について学び、健全な身体発達を促すことができる。
3.園における諸活動を保護者に理解してもらうための「園だより」を作成できる。

Ⅲ 授業の概要
領域「健康」に関わる内容を学び、園だよりの作成を通して実践方法を学ぶ。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.領域「健康」とは	領域「健康」の内容
2.領域「健康」のねらいと内容(1)	幼稚園教育要領
3.領域「健康」のねらいと内容(2)	保育所保育指針
4.乳幼児期の身体発育(1)	身体発育
5.乳幼児期の身体発育(2)	機能発達
6.基本的生活習慣(1)	基本的生活習慣確立の意義
7.基本的生活習慣(2)	基本的生活習慣の内容
8.健康管理	健康観察・健康相談・感染症予防
9.安全教育(1)	園内の事故と危険防止
10.安全教育(2)	交通安全および防犯対策
11.安全教育(3)	自然災害への対応
12.園だより(1)	園だよりの作成
13.園だより(2)	園だよりの作成
14.園だより(3)	園だよりの作成
15.まとめ	全体のまとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等
必要に応じてプリントを配布する。

Ⅵ 参考書・参考資料
＜ねらい＞と＜内容＞から学ぶ　保育内　清水将之・相樂真樹子　　わかば社　2015　9784907270148
容・領域　健康

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	授業態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	40	15	15	30	
基本的生活習慣の意義・内容の理解	○	○	○	○	
乳幼児における身体発達の理解	○	○	○	○	
安全教育の内容の理解	○	○	○	○	
園だよりの作成	○	○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
保育者として、自らの基本的生活習慣を見直すことに取り組む。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
グループでの活動を行うので、活動に支障がないよう出欠席には注意すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育内容研究（人間関係）		**2**	**保**	**2**	**岡村由紀子**

Ⅰ　主題

［人は、人の中で生きる動物であると言われるように人間関係は、子どもが育つ上で重要である。そこで、人間とは何か？人間関係は、人間にとってどういう意味を持つのか？と根本的な問いかけをし、深く人間関係を掴み、乳幼児期の人間関係論を深め、高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.乳幼児からの人と関わる力』の発達を理解し、人間関係
2.「気になる」子、虐待など様々な現代の子どもの問題を人間関係の視点でを学び、考察する。
3.さらに、現代の保育・子育てにあるニーズの理解、問題の整理、保育実践力を身につける。

Ⅲ　授業の概要

毎回テーマにふさわしい授業プリントを用意し事前に配布し、授業前に学習テーマを理解して参加する。当日は、事前学習を前提に、テーマに沿って、参加者が意見を述べ、テーマ内容を深め、まとめていく。授業を通じて現代社会の複雑化・多様化している人間関係の本質・課題・応用を学ぶ。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1.人間関係とは何か－1	人類の誕生から学ぶ
2.人間関係とは何か－2	歴史から学ぶ
3.関わる力とは何か	チンパンジーの子育てから学ぶ
4.関わる力を育てる意味	人間が生きることと関わって考察
5.年齢別人間関係力の育ち－1	乳児期
6.年齢別人間関係力の育ち－2	幼児期
7.特別なニーズを持つ子ども達－1	障害を持つ子どものニーズ
8.特別なニーズを持つ子ども達－2	虐待される子ども達のニーズ
9.人間関係と想像性	想像性の発達
10.大人の人間関係－1	親子の人間関係
11.大人の人間関係－2	保育者の人間関係
12.大人の人間関係－3	父母・保育者・地域の人間関係
13.施設見学	
14.施設見学	
15.まとめ	

Ⅴ　使用テキスト・教材等

テキストは、使用しない。毎回プリントを配布する。

Ⅵ　参考書・参考資料

保育内容・人間関係　　金田利子・齋藤政子編著　同文書院

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100%	50	30	10	10	
人間関係の本質的理解、発達の理解	○	○		○	
特別なニーズの理解、問題整理力	○	○		○	
応用力、保育実践力	○	○		○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

・日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・次回授業のプリントを読み要旨をまとめ、自分なりに考察をして意見をまとめたプリントを作成し、当日の授業前に提出する

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（ことば）		**2**	**保**	**1**	**小野田貴夫**

Ⅰ 主題
自己表現、コミュニケーション、想像力の喚起といった側面について、言葉の発達及び習得の観点から、如何に充実させていくか考察する。

Ⅱ 授業の到達目標
1.言葉による自己表現を促す方法を提示できる
2.楽しいコミュニケーションが可能となる条件を設定できる
3.言葉を主とする遊び方・楽しみ方の実施計画が立てられる

Ⅲ 授業の概要
言葉の発達に応じた保育環境について計画・調整できるようになるための知識を、様々な場面や操作対象を取り上げながら、グループワークを通じて身につけていく。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1. 乳幼児期のコミュニケーション様式	母子関係、愛着、共同注視について
2. 言語発達の過程と対人関係	言葉の発達と家族・社会関係の変容
3. 言語発達の土台作り	保育者の関わり・コミュニケーション環境
4. イメージの生成と言葉	言葉によるイメージ生成の仕組み
5. 言葉と遊び	言葉で「楽しみ」を生み出す場面・方法
6. 絵本と言葉	絵、言葉、歌による絵本コミュニケーション
7. 歌と言葉	歌の中の言葉・歌によるコミュニケーション
8. 映像・絵画と言葉	絵画表現の発達と言葉の関係
9. 文字の習得	文字に対する意識の変化
10. 言語発達の個人差	自己表出志向と指示表出志向
11. 言語発達と性差	性差による言語表現の傾向の差異
12. 心身の障害と言葉	障害に応じたコミュニケーション
13. 聴覚障害・視覚障害と言葉	手話・点字について
14. 発達障害と言葉	共同注意と言語習得について
15. まとめ	

Ⅴ 使用テキスト・教材等
資料を配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目 ＼ 成績評価方法	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60		30	10	
自己表現を促す方法を提示できる	○			○	
コミュニケーション条件を設定できる	○			○	
遊び方の実施計画が立てられる	○		○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
各回に配布する資料の再読と課題の実施。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
グループワーク等では、積極的に参加し、発言すること。私語は慎むこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育内容研究（音楽表現）		**〔2〕**	**保**	**2**	**加藤明代**

Ⅰ　主題

子どもの音楽的表現を様々な視点で受け止め支えていくためには、保育者自身の柔軟な感性と豊かな知識・技能が必要である。これらの伸長を目指すとともに、子どもへの援助・指導の在り方について考える。

Ⅱ　授業の到達目標

1.保育者として必要な音楽の基礎知識や基礎技能を習得し、実践で活用できる。
2.「聴く・歌う・楽器を扱う・つくる・動くなど」といった活動を楽しみながら、感性と表現力を磨く。
3.演習を通して、子どもの音楽的表現を支える援助・指導への理解を深める。

Ⅲ　授業の概要

歌ったり、伴奏をしたり、という基礎技能に関わる内容は毎回扱っていく。幾つかの活動を通して音楽表現の楽しさに触れながら、子どもの豊かな音楽的表現が育つような援助の方法や留意点を考えていく。

Ⅳ　授業計画と内容

	項　目	内　容
1	領域「表現」について	領域「表現」における音楽表現の捉え方
2～4	音楽の基礎知識と基礎技能を確実にする	既習内容の確認、応用
5～8	感性と表現力を磨く	聴く・歌う・楽器を扱う・つくる・動くなど、様々な表現活動を行う
9～10	模擬授業	指導案の作成、発表と意見交換
11～12	創作と発表（1）	絵本を使って（グループ）
13～14	創作と発表（2）	様々な表現との関わりから（グループ）
15	まとめ	個人課題の発表、まとめ

Ⅴ　使用テキスト・教材等

子どもの歌(本科で使用していたもの)　常葉大学短期大学部　　幼児音楽研究会編
必要に応じて資料を配布する

Ⅵ　参考書・参考資料

実践しながら学ぶ子どもの音楽表現　　石井玲子：編著　　保育出版社

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（実技）
配点比率(%)　合計 100		10	40	25	25
音楽の基礎知識と基礎技能の習得とその活用				○	○
表現を多様な視点で捉え、能動的に活動に取り組む		○	○	○	○
子どもの音楽的表現を支える援助・指導への理解			○	○	○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

音楽の基礎知識と基礎技能の習得のためには、予習・復習を行うこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

授業内で行う弾き歌いは、自分のレベルにあった楽譜を使用してよい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育内容研究（造形表現）		**〔2〕**	**保**	**2**	**小倉隆**

Ⅰ 主題

さまざまな造形材料と表現、方法を主体的に試みることで、造形活動・表現に親しみ、保育者としての造形活動・表現の知識・理解を深める。

Ⅱ 授業の到達目標

1.主体的にさまざまな造形分野の教材研究を試み、考察が出来るようになる。
2.造形の観点で絵本の魅力や楽しさなどを考察することが出来るようになる。
3.自らの教材研究を活かした造形表現(創作絵本)を試みることができるようになる。

Ⅲ 授業の概要

主体的にさまざまな造形分野の教材研究に取り組み、考察することで、造形活動と表現の楽しさを味わい、知識・理解・興味を深め、それらを活かした表現を試みる。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	オリエンテーション	授業の説明
2～11.	教材研究	さまざまな造形あそびを試し、考察する
12～14.	教材研究を紹介する	取り組んだ教材研究と考察を発表する
15.	教材研究のまとめ	これまで取り組んだ教材研究を振り返りまとめる
16.	絵本を考察する	造形を主題とした絵本を考察する
17～28.	絵本を創作する	教材研究を活かした絵本を創作する
29.	創作した絵本を紹介する	創作した絵本の紹介と制作を振り返る
30.	授業のまとめ	授業の振り返りとまとめ

Ⅴ 使用テキスト・教材等

テキスト:必要な資料は配布する

Ⅵ 参考書・参考資料

参考資料　英語版 Little Blue and Little Yellow/Swimmy ; Leo Lionni　可能であれば各自で購入すること。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他
配点比率(%)　合計 100		30	30	40	
さまざまな造形活動・表現の教材研究と考察		○	○	○	
絵本の造形的側面の考察		○	○	○	
教材研究を活かした造形表現の実践		○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

・授業での取り組みをノート、ファイル等にまとめておく。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

・授業で関心を持った関連事項に積極的に取り組むこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育学方法論		**4**	**保**	**1**	**竹石聖子、鈴木久美子**

Ⅰ 主題
論文作成を目指して、保育研究のための方法論について学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.観察及びエピソード記述を行い、子どもの行為の意味や保育者の思いについて深く考察できる。
2.調査研究の基本的な方法を理解することができる。
3.調査の実施とデータ分析を行い、結果を発表することができる。

Ⅲ 授業の概要
前期は観察法及びエピソード記述、後記は調査票調査を実施し、調査レポートを作成する。

Ⅳ 授業計画と内容

	項目	内容
1.	保育研究とはなにか	保育学への扉
2.	観察法の意義	保育者が子どもを見るということ
3～5.	エピソード記述とはなにか	エピソード記述の目的と書き方を学ぶ
6～11.	観察をもとにエピソード記述を行う	各自がエピソード記述を行う
12～14.	エピソード記述の考察	全体で読み合い、討議を行う
15.	エピソード記述集の作成	エピソード記述集を作成する
16.	調査の種類と方法	調査の種類と方法を学ぶ
17.	調査レポートの作成	調査レポートの書き方を学ぶ
18.	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの方法について学ぶ
19.	調査の企画	どのような調査を実施するか企画する
20～22.	調査票の作成	調査票を作成する
23～26.	調査の実施とデータ分析	調査を実施し、収集したデータを分析する
27～29.	レポートの作成	調査レポートを作成する
30.	調査結果の報告	情報機器を活用し、調査結果報告会を実施する

Ⅴ 使用テキスト・教材等

Ⅵ 参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	40		40	20	
エピソード記述についての理解と考察			○	○	
調査方法についての理解と考察	○		○	○	
調査票の作成と実施、結果発表	○			○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
前期はエピソード記述を書き集めること。後期は計画に従って、調査票調査を実施すること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
論文に直接つながる学習である。授業時間外の学習がきわめて重要になる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育臨床学特論		**2**	**保**	**1**	**岡村由紀子**

Ⅰ 主題

この授業では、現代社会におかれている子どもの状況を多面的につかみ、その課題を明らかにし子どもの発達保障をする為の、理解力・実践力の高い専門性が身につくことを目標とする。

Ⅱ 授業の到達目標

1.子どもを取り巻く状況を歴史的・社会的・文化的に考察する。
2.保育場面における子どもの表れを「自我形成の発達」に視点にあて学ぶ。
3.その上で幼児期から思春期を見通した保育の理論を理解し、実践力を身に付ける

Ⅲ 授業の概要

この授業では、テキストを参考に、テーマを中心に論議を進めていく。
論議を通じて、現在の保育場面における課題や問題を明確化し、理解力・問題整理力を身につけ実践力の高い専門性を身につける。。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.育ってきた時代を振り返る	戦後の歴史を中心にする。
2.子どもの中に見る社会	子どもの表れと社会の動きの比較。
3.あそび文化を通してみる子ども	あそびの歴史を中心にする。
4.あそびの意義	発達の視点から考察する。
5.あそびの構造	保育構造の中で捉える。
6.自我形成の発達と保育	発達とは何かを中心にして学ぶ。
7.自我形成－1	乳児期〔0－2 歳児〕
8.自我形成－2	幼児期〔3－5 歳児〕
9.自律的自己コントロール形成と保育	自己主張期・集団に働きかけ期
10.自律的自己コントロール形成と保育	自己コントロール期
11.気になる子を含む個と集団－1	個と集団の発達の比較
12.気になる子を含む個と集団－2	実践の実際と指導について深める。
13.施設見学	
14.施設見学	
15.「求められる保育」について	発表・討議

Ⅴ 使用テキスト・教材等

4 歳児の自我形成と保育　　岡村由紀子・金田利子共著　　ひとなる書房　　9784894640573

Ⅵ 参考書・参考資料

気になる子と言わない保育　赤木和重・岡村由紀子編著　ひとなる書房

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

学習項目＼成績評価方法	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%) 合計 100%	50	20	20	10	
保育現場の課題や問題を理解	○	○			
様々な問題を整理し課題を生み出す		○	○		
応用力、保育実践力	○	○	○	○	

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）

・ 日頃、新聞・ﾃﾚﾋﾞなどを通して現在に生きる『子ども達の姿』を捉え、まとめ、発表をする。
・ 授業の中で出る様々な他者の意見や保育実践の理論がどこにあるのかを授業後、自分なり考え、まとめる。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）

毎回授業後、小レポート提出

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
臨床心理学特論		**2**	**保**	**1**	**土屋廣人**

Ⅰ　主題

この授業では、臨床心理に関する知識を元に心の有り様を理解する方法を学ぶ。

Ⅱ　授業の到達目標

1.臨床心理の知識を理解し、自分の心の動きが観察できるようにする。
2.心理援助の実際を理解し、アセスメント力を高める。
3.心理臨床で培った知見をもとに、保育現場における人の理解・支援に応用できるようにする。

Ⅲ　授業の概要

臨床心理に関する知識を理解するとともに、子どもの観察と同時に背後にある家庭等保育環境を構造的に捉えながら個人を支える心理援助の方法を探る。

Ⅳ　授業計画と内容

項目	内容
1 臨床心理学とは 1	床に臨む理解、心の問題、治るとは
2 臨床心理学とは 2	援助の対象・プロセス、領域
3 援助の実際 1	病態水準、診断基準
4 援助の実際 2	情緒障害、不登校
5 援助の実際 3	自閉症、摂食障害
6 援助の実際 4	パーソナリティ障害
7 人格理論 1	フロイト
8 人格理論 2	ロジャーズ
9 発達理論 1	ウィニコット
10 発達理論 2	エリクソン
11 アセスメント 1	知能検査・発達検査
12 アセスメント 2	人格検査
13 援助技法	遊戯療法、クライエント中心療法、認知行動療法
14 地域で支える	連携と個人情報
15 まとめ	これまでの授業をまとめる

Ⅴ　使用テキスト・教材等

心とかかわる臨床心理　　川瀬正祐・他　ナカニシ出版　　9784779509315

Ⅵ　参考書・参考資料

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（レポート）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　　）
配点比率(%)　合計 100	60	10	15	15	
臨床心理の理論理解	○	○	○	○	
心理援助の理解	○	○	○	○	
自己理解と支援力の向上	○	○	○	○	

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

臨床心理関連の関心ごとを自ら調べ発表する準備を行う。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

主体的な授業参加態度が求めれれる。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育研究実習	**(4)**		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ 主題
1年間にわたり常葉大学短期大学部附属たちばな幼稚園、とこは幼稚園両園において研究実習を行う。その中で幼児教育専門職としての職務追行能力を養成しつつ、研究的態度をもって保育を行っていく。

Ⅱ 授業の到達目標
1.自分なりの視点を持って保育に参加することができる。
2.研究的立場から保育を考える姿勢を持つことができる。
3.実習したことを、考察し、記録にまとめることができる。

Ⅲ 授業の概要
実習に当たっては事前・事後指導を行い、附属園ときめ細かい打ち合わせをしつつ、園の実情に即した形で進めていく。

Ⅳ 授業計画と内容
○実習事前指導　　※これらを1年の園の保育の流れに合わせた形で進めていく。

○日常の保育場面における実習

○行事への参加における実習　　実習期間は
平成 29 年4月～平成 30 年2月
（毎週　火曜日）

○研究保育に向けた実習

Ⅴ 使用テキスト・教材等
特になし

Ⅵ 参考書・参考資料
授業内で必要に応じて指示する。図書館の資料をおおいに活用したい。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（記録等）
配点比率(%)　合計 100%				50	50
目的を持って実習に参加する態度				○	○
保育を省察する態度				○	○
保育の要点を記録する技術				○	○

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
自分の研究テーマを活かして実習日誌を書くこと。
実習日誌は、期日内に必ず提出すること。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
各園の先生方と密に連絡してすすめること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
専門ゼミナール		〔1〕	**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ　主題

自らの研究テーマを見つめ、2年次の修了論文作成につなげていくことを目的とする。各自の興味・関心をもとに選択した教員のゼミナールに所属し、個別に指導を仰ぎながら、自分の研究テーマを学び、深めていく。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自らの研究テーマを持ち、研究に取り組むことができる。
2.研究テーマに沿った書籍、論文等の資料収集と購読ができる。
3.計画を立て、見通しを持って論文作成にあたることができる。

Ⅲ　授業の概要

学生自身の選択、教員の認定により所属ゼミナールを決定した後、各教員と進め方を相談しながら以下のように論文作成に向かう。

Ⅳ　授業計画と内容

① 実習・授業その他の経験の整理から、自分が興味や関心を抱けるテーマを絞っていく
② 仮テーマの決定
③ テーマに関する文献等を読み、関心を絞り込んでいく
④ 論文作成に必要なアンケートや観察等の計画を立てる

※①は全体で行う
②～④は担当教員と相談しながら進めていく。

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各教員と相談し、必要なものを用意する。

Ⅵ　参考書・参考資料

特になし

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（資料収集）
配点比率(%)　合計 100%			50		50
自らの興味関心を活かしたテーマ設定ができたか			○		○
文献、論文等の資料の収集と購読ができたか			○		○
計画的な研究の遂行ができたか			○		○

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

各自の計画に沿って自主的に課題に取り組むこと。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

修了論文の作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	学科	年次	担当教員
保育特別研究Ⅰ	**〔2〕**		**保**	**1**	**竹石聖子**

Ⅰ 主題
段階的に修了論文作成に向かっていくために、「論文を書くこと」を学ぶ。

Ⅱ 授業の到達目標
1.研究とはなにかを理解し、意欲を高めることができる。
2.論文作成に必要な知識を学び、その方法論を理解することができる。
3.さらに、上記を理解することで、具体的な論文作成につなげることができる。

Ⅲ 授業の概要
論文を書くことを最終目的に掲げ、そのプロセスを段階的にたどって学ぶ。

Ⅳ 授業計画と内容

項目	内容
1.修了論文とはなにか	修了論文の位置づけと要件を知る
2.論文を書くとはどういうことか	論文を書くことの意味、進め方を知る
3.研究とはなにか	研究の進め方を知る
4～6.文献研究方法について	文献の集め方、読み方を学ぶ
7～10.テキストクリティーク①	テキストクリティークのレポート作成
11～13.テキストクリティーク②	発表
14.フィールドワークについて①	フィールドワークの方法を学ぶ.
15～18.フィールドワークについて②	フィールドワークを実施し、成果を発表する
19～20.テーマのたてかた	テーマのたてかた、深め方を学ぶ
21～22.調査研究方法について	様々な調査方法を学ぶ
23～24.論文の書き方	論文の書き進め方を学ぶ
25.修了論文の書き方	修了論文の具体的な書き進め方を学ぶ
26～29.研究計画書の作成	研究計画書を作成する
30.研究テーマの発表	研究テーマを発表する
定期試験	レポート

Ⅴ 使用テキスト・教材等
よくわかる卒論の書き方(第二版)　白井利明ほか　　ミネルヴァ書房　2013　9784623065721

Ⅵ 参考書・参考資料
授業内に適宜、紹介する。

Ⅶ 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験(レポート)	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他( )
配点比率(%)　合計 100	50	10	40		
研究に対する理解と意欲	○	○	○		
論文作成についての理解	○	○	○		
研究テーマと計画案の設定	○	○	○		

Ⅷ 授業時間外の学習（予習・復習等）
テキストを事前に読んで、レジュメを作成すること。テーマ毎に与えられた課題に取り組むこと。

Ⅸ その他（履修上の注意、前提条件等）
修了論文作成は、1 年次から始まっている。そのことをしっかり自覚してほしい。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
保育特別研究Ⅱ	**〔2〕**		**保**	**2**	**竹石聖子、前浦律子、井上知香、鈴木久美子、遠藤知里**

Ⅰ　主題

1年次の学びおよび専門ゼミナールで取り組んできた成果を活かし、修了論文を作成する。教員と相談しながら研究方法を決め、文献収集を行い、データを分析し、論文にまとめあげることを到達目標とする。

Ⅱ　授業の到達目標

1.自分のテーマに沿った研究方法で研究を進める。
2.集めたデータをまとめて分析する。
3.自分の研究した内容について説明ができる。

Ⅲ　授業の概要

それぞれの担当教員と相談しつつ、計画的に自らのテーマに沿って論文を作成する。

Ⅳ　授業計画と内容

テーマ	教員
保育学・教育学関係	前浦律子　竹石聖子　加藤寿子
心理学関係	大村壮　金子泰之
社会福祉関係	鈴木久美子
表現関係	小倉隆
運動・健康関係	鈴木雅裕　遠藤知里

Ⅴ　使用テキスト・教材等

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅵ　参考書・参考資料

各自のテーマに即して、担当教員と相談して選定する。

Ⅶ　成績評価の方法及び基準

成績評価方法 / 学習項目	試験（　）	小テスト・小レポート	成果発表・作品	学習態度	その他（　）
配点比率(%)　合計 100%			100		
自己課題を明確に表現した論文作成			○		
データ収集の方法の妥当性			○		
プレゼンでの表現の仕方			○		

Ⅷ　授業時間外の学習（予習・復習等）

自分の研究計画に従って、自主的に進めていく。

Ⅸ　その他（履修上の注意、前提条件等）

途中経過をきちんと担当教員に報告すること。
※評価に関する補足：担当教員の論文審査に加え、修了論文発表会の様子等も加味して綜合的に評価する。